

難治性過活動膀胱の新しい治療

当院では、難治性過活動膀胱に対する新しい治療として 2019 年 10 月に「仙骨神経刺激療法」を開始しました。筑豊地区では初めての導入になります。過活動膀胱の治療は、生活指導に加えて抗コリン薬・ $\beta 3$ 作動薬・漢方薬などの内服薬を用いて治療することが多いですが、なかには、①治療効果に乏しい、②口内乾燥や便秘などの副作用で内服薬の継続が難しい、といった患者さんもおられます。一般的に生活指導と内服薬による治療を 3 ヶ月程度続けても症状改善が得られない場合に「難治性過活動膀胱」と診断します。このような場合に有効な治療法のひとつとして「仙骨神経刺激療法」があります。欧米では 20 年程前からおこなわれている治療法ですが、本邦では 2017 年 9 月ようやく保険収載されました。過活動膀胱の治療でお困りの方、「仙骨神経刺激療法」に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

SNM (仙骨神経刺激療法) とは?

排泄に関係する神経に持続的に電気刺激を与えることによって、過活動膀胱の症状の改善を図る治療方法です。



■持続的に電気刺激を行うため、心臓ペースメーカーのような装置を体内に植込みます。

■欧米では1990年代から行われており、日本でも2017年9月から健康保険が適用されています。

このような治療方法です

1 リード (刺激電極) の挿入

まず治療効果を確認するために、リードだけをおしりの仙骨にゆっくりと挿入します。大きな切開は行いませんが、手術室で麻酔をかけて行います。

2 試験刺激

挿入したリードと体外式の刺激装置を接続して、1~2週間試験的に刺激を行い、治療効果を判定します。もし、効果が認められない場合は、刺激装置の植込みは行わずリードを抜去します。

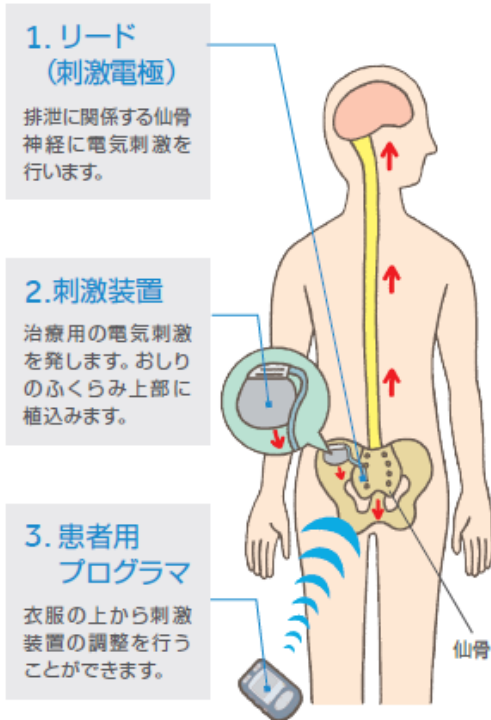
3 刺激装置の植込み

試験刺激により治療の効果が認められた場合は、すでに挿入されているリードを刺激装置に接続した後、おしりのふくらみ上部に植込みます。

SNM (仙骨神経刺激療法) の特徴

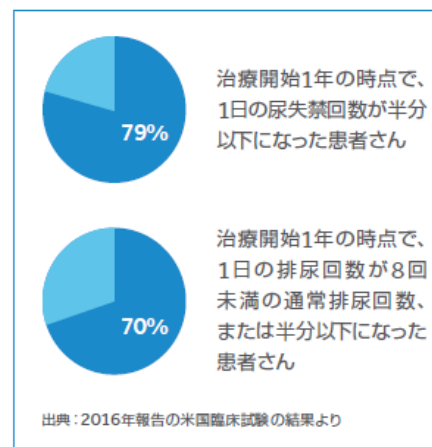
- 刺激装置を植込む前に、試験刺激で効果を確認されます。
- 効果が認められない場合にはリードを抜いて、以前の状態に戻すことができます。
- 刺激装置の植込み後は、刺激の調整をご自身でコントロールできます。

使用する機器



SNM (仙骨神経刺激療法) の効果について

SNM (仙骨神経刺激療法) は、過活動膀胱の原因となる病気を治す訳ではありません。治療効果は、患者さんの症状によって異なります。これまでに米国で行われた臨床試験では、治療開始3か月の時点で、1日の尿失禁回数が約4割の患者さんで0回に、約8割の患者さんで手術前の半以下に減少しました。また頻尿の患者さんでは、約7割の患者さんが8回未満の通常排尿回数、または手術前の半以下に減少し、尿失禁、頻尿共に、1年後も効果が持続しました。



仙骨神経刺激療法の留意点

- ・ 植込み部位に違和感や痛みを生じる場合があります
- ・ 体内に異物を植込むため、感染を起こすことがあります
- ・ 植込み機器の材料（チタン、シリコンなど）にアレルギー反応を起こす可能性があります
- ・ 植込み後はMRI検査を原則受けられなくなります
- ・ 運動の制限があります（激しい運動や大きく体をひねる・伸ばすなど）